

平成27年度 山形美術館事業計画書
－ 企画展－

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
藤森武写真展 「みちのくの仏像」	東北地方は魅力的な平安仏の一大宝庫として仏像ファンに知られている。ユネスコ世界遺産にも登録された岩手・中尊寺の国宝金色堂はもちろん、6県それぞれに歴史と伝統、さらには地域色豊かな仏像が数多く残され、奈良・京都といった古都にも引けをとらない。 仏像といえば、多くの人が土門拳「古寺巡礼」を連想するのではないだろうか。アップを多用し、仏像の持つ荘厳さ、重厚さ、躍動感、愛らしさなどを迫力十分の写真作品として表現している作品の多くは奈良・京都の古寺で撮影したものだが、いずれ自らの出身地でもあり仏像の宝庫でもある東北での撮影を心に秘めていたという。中尊寺・金色堂などの作品はあるものの、果たせなかった東北各地の仏像撮影を、土門拳の内弟子であった藤森武が続けている。 本展は、東日本大震災から4年目を迎え今なお復興途上にある東北で、カミとして祀られた東北各地の代表的な仏像を、藤森武が撮影した100点の写真と、土門拳の中尊寺・金色堂の作品を紹介し、「みちのく」とは何かを問い直すと同時に、仏像に託された先人の思いを噛みしめる機会とする。	4月11日(土) － 5月10日(日)	
		一般大学生 800円 小中高生 500円 ※土曜日は中学生以下無料 吉野石膏コレクション展と共通料金	
高山辰雄 《聖家族》展と 日本画五山展	吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より山形美術館に寄託されている近代フランス絵画コレクションに加え、新たに高山辰雄の代表作《聖家族》全26点と同名の銅版画16点が寄託されたのを記念して企画する展覧会である。本シリーズは画業を通じて人間存在を追求し続けた高山辰雄の代表作にして、その到達点とも言える。 《聖家族》の連作を中心に、現代日本画の世界に大きな足跡を残した高山芸術の魅力を探るとともに、同社と同財団が所蔵する東山魁夷、杉山寧、加山又造、平山郁夫の作品を展示し、吉野石膏コレクションによる“日本画五山”の魅力を味わう機会とする。	7月23日(木) － 8月23日(日)	
		一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜日は中学生以下無料	
再興第100回 院展山形展	1898(明治31)年、日本美術院は岡倉天心、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らによって、新しい時代の美術を樹立する目的で創立された。1914年に院展を再興し第1回展を開催して以来、本年で100回展を迎える。近代日本画の歴史と伝統を築いてきた同展には松尾敏男、後藤純男、田淵俊夫ら、現代の日本画壇を代表する作家が属している。 本展は秋の院展の巡回展として、院展同人の大作と受賞作、さらに東北芸工大の教員を始めとする卒業生・在学生らの作品など計100余点を展示。また100回展を記念し、当館が収蔵する本県出身の同人、小松均、今野忠一、福王寺法林ら院展関係者の作品を展紹介し、日本画の現在と新たな歩みの方向性を紹介する。	11月7日(土) － 11月23日(月)	
		一般 1,000円 高大生 700円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料	

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第70回山形県総合美術 展覧会記念特別展 第10回山形市所蔵美術 品作品展 文翔館開館20周年協賛 事業 県美展をいろ どった作家たち	山形県総合美術展覧会(県美展)は、1946(昭和 21)年 6 月に第 1 回展が開催され、同年 11 月には第 2 回展を開催。終戦後の混乱と不安の中、山形県の美術家たちが熱い思いを持って結集、多くの支援や協力のもとに県美展の活動が開始された。以来、県美展は、作家や美術愛好家の発表の場として、山形県の美術振興の一翼を担ってきた。 本展は、県美展開催が本年に 70 回を数えるのを記念し、当館収蔵作品と山形県・山形市が所有する作品から、県美展に出品を重ね、日本の美術界の中心となった作家や、地域の美術振興に努めた作家たちの作品を紹介する。県美展の歴史を振り返り、山形の美術の未来を展望する機会とする。	12月10日(木) － 1月31日(日)	
		一 般 700円 大学生以下無料	

－ 3 県展－

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第70回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946(昭和21)年6月に第1回展が開催されて以来、本年で70回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第57回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	8月29日(土) － 9月13日(日)	
		一 般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料	
第40回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は1975年に第1回展が開催され、本年で40回を迎える。搬入された作品を県書壇の重鎮らによる合同審査による優秀作、入選作を選定し表彰する。またギャラリートークや、記念展として講演会や作品集刊行により、県書道界のなお一層の振興をはかる。	9月19日(土) － 9月27日(日)	
		一 般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料	
第50回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年で50回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。公民館や生涯教育のなかでカメラや写真に親しむ人が増えており、本年も約2,500点の応募作品が予想される。	2月25日(木) － 3月21日(月)	
		一 般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料	

－ 収蔵品によるテーマ展－

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
吉野石膏コレクション 印象派の光 とシャガール 「ダフニス とクロエ」	吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、きら星のごとく優品が揃っている。同コレクションの印象派の作品と、シャガールが制作した版画の中でも20色以上の色彩を用いたリトグラフ作品《ダフニスとクロエ》(42点)を紹介。フランス近代絵画の多彩な表現に触れる機会とする。	4月11日(土) － 5月10日(日)	
		一般大学生 800円 小中高生 500円 ※土曜日は中学生以下無料 藤森武写真展と共通料金	

－ 収蔵品展－

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	収蔵写真展 10月8日-10月18日 常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション－珠玉のフランス近代絵画」/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 500円 高大生 300円 小中生 100円 収蔵品展によっては料金が 変わることもあります。 ※土曜日は中学生以下無料	